

白 沢 小 学 校

所在地 〒378-0121 沼田市白沢町高平94番地1

電話番号 0278-53-2151 FAX 53-3860

校長名 後藤 一将

I 学校の経営

1 学校の教育目標 ○よく勉強する子 ○思いやりのある子 ◎ねばり強い子

2 経営方針

- ①教師の学び続ける姿勢と、周囲の変化に気づく同僚性の高い教職員集団の形成
- ②誰もが居心地よいと感じる学級経営と、特別な配慮を必要とする児童への支援の充実
- ③主体的・対話的で深い学びによる「確かな学力」の育成
- ④自他を尊重し、未来を力強く生きるための「豊かな心」の育成
- ⑤望ましい生活習慣の確立と進んで運動に親しむ活動による「健やかな体」の育成
- ⑥保護者・地域から信頼される学校経営の充実
- ⑦学校運営協議会と一体となって進める地域とともにある学校づくり

3 本年度の重点施策

[①教師の学び続ける姿勢と、周囲の変化に気づく同僚性の高い教職員集団の形成]

- ・学校教育方針の具現化に向けて、個々の持ち味を發揮し、果敢に挑戦する教職員集団の構築
- ・経験豊かなベテラン教員の知恵とサポートにより、次代の教育を担う中堅、若手教員の育成と躍動
- ・同僚の小さな変化に気づいて行動できる、風通しのよい職場の環境づくり
- ・児童から見て魅力的な存在であり続けるため教師の学び続ける姿勢とワークライフバランスの充実

[②誰もが居心地よいと感じる学級経営と特別な配慮を必要とする児童への支援の充実]

- ・自分の役割や責任を果たしたり、仲間を支えたりする活動の積み重ねによる自己有用感の醸成
- ・特別な支援を必要とする児童への支援と、その保護者の気持ちに寄り添った指導の充実
- ・児童の SOS を早期にキャッチする教師のアンテナとチーム支援の充実による不登校の未然防止

[③主体的・対話的で深い学びによる「確かな学力の育成」]

- ・授業の中で児童の興味・関心を引き出したり学びを支援したりする「伴走者」としての発想の転換
- ・児童が必要感をもって取り組める学習課題の設定と、自己決定、対話・交流の場面の充実

[④自他を尊重し、未来を力強く生きるための「豊かな心の育成」]

- ・ふるさとへの愛着や誇り、未来を創造する気持ちを高められるよう、探究的に行う体験活動の推進
- ・「考え・議論する道徳」の授業改善を要として、教育活動全体を通して行う道徳教育の推進

[⑤望ましい生活習慣の確立と進んで運動に親しむ活動による「健やかな体」の育成について]

- ・運動の楽しさやできた喜びを味わわせるために、運動する時間を十分確保した体育授業の工夫
- ・児童の危険予測と危険回避能力を高めるための実効的な安全教育の推進

[⑥保護者・地域から信頼される学校経営の充実について]

- ・自らの職責の重さを常に自覚し校務の内外を通じて意識する、服務規律の確保に向けた取組の徹底
- ・日常的なコミュニケーションのもと、対応すべき事案に対する迅速な「報告・連絡・相談」の徹底

[⑦学校運営協議会と一体になって進める地域とともにある学校づくり]

- ・学校運営協議会と共通の目標やビジョンを目指した教育活動の質的向上

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主 題 自ら考え、共に学び合う児童の育成

副主題 ～問題解決的な学びにおける「対話・交流の場面」の充実～

児童の実態との関わり

- ・問題解決的な授業で、粘り強く課題に取り組み、課題の追究を楽しむ姿が見られ主体的・対話的な学びができてきた。
- ・特に高学年の児童については、算数科を中心にタブレットのカメラとロイロノートの回答共有機能を使って意見を交流することに慣れてきた。
- ・「対話と交流」を通して、自分の考えをよりよいものに広げたり深めたりする力はまだ十分ではない。

指導の在り方や研修との関わり

- ・算数科を中心に、1単位時間に児童がワクワク感をもって取り組むことができる問題解決的な学習課題の設定、授業展開を工夫する。
- ・「対話と交流」が活発に行われるような手立てや方法を、児童の発達段階や各学級の実態に応じて授業に取り入れていく。
- ・昨年度までの研修を生かし、「対話・交流の場面」を重視し、多くの意見に触れ、議論することで自分の考えを深めたり新しい考えを構築したりできる力を伸ばす。
- ・「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善を進め、児童の確かな学力を育成し、全学年で学力の底上げを図る。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す児童像

【低学年】学習課題に興味をもち、「対話・交流の場面」を通して自他の考えのよさに気付く児童

【中学年】学習課題の追究を楽しみ、「対話・交流の場面」を通して自分の考えを広げたり深めたりする児童

【高学年】学習課題を自分事として捉え、「対話・交流の場面」を通して他者の考えのよさを理解し、よりよい考え方や方法を選択する児童

(2) 共通実践する手立て

- ・単元全体を見通し、問題解決学習ができる時間を計画的に設定する。
- ・児童がワクワク感をもって取り組める一単位時間の学習課題を設定する。
- ・「対話・交流の場面」を特に重視する。

[取り入れたい場面]

- ・自己決定 当事者意識をもち、主体的に学習に取り組む。
- 対話・交流 自分の考えを広げ、他者との対話・交流の場面を設定し共感や理解を深める。
- ・試行錯誤 失敗や誤りから学び、より効果的な解決策を導く。

[本校としてのワクワク感の捉え]

- ・学習の興味を持続するワクワク感
- ・課題の追究を楽しむワクワク感
- ・自分事として捉えるワクワク感

3 研修計画・経過報告 <裏面>


4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果：児童がワクワク感をもって取り組むことができる問題解決的な学習課題を設定したことで、とても意欲的に取り組めた。また、「対話と交流の場面」の後に適応問題に取り組む時間を確実に確保することで深い学びに繋がった。

○今後の取組：各自が自分の考えをもち、よりスムーズで学びのある対話と交流の場面となるよう、深い学びへと繋がる授業展開の更なる工夫が必要である。

3 研修計画・経過報告 **指** は、指導案検討 **授** は、研究授業・授業研究会 **成** は、成果 **課** は、課題

月日	研修計画 [内容]	経過報告[○研修の視点(上段)・明らかになったこと(下段)]
4.14	今年度の研修について	○研修内容の共通理解 ○テーマ・サブテーマの決定 ○A訪問の指導案作成について
5.19	指導主事要請訪問 A	○研究授業(B 訪問)について、研究の方向性を確認、共通理解
5.22	校内研修全体計画について	○A 訪問での指導や反省 ○研究授業の進め方、代表授業者・B 訪問についての共通理解
6.23	沼田市教育水準関係の連絡 NRTの分析と活用について	○沼田市教育水準に関する連絡 ○学力検査(NRT)の分析と活用について情報の共有
7.1 7.3	授 中学年研究授業 	3年：算数「表とグラフで表そう」 富永 隼哉教諭 成 ：子ども達が自分で選んだデータを基に表やグラフを作成し問題解決ができたことで意欲が高まった。自力解決後、友達同士でグラフを見せ合い、チェックし合うことで対話と交流が深まり、グラフの精度を高めることに役立った。 課 ：友達とチェックし合う際の具体的な視点を与えることで更に対話と交流が深まり、正しい表やグラフを完成させるための修正に役立つことが考えられる。
夏休期中	*自主研修	○授業実践に向けた指導案作成とその検討 ○B訪問(教育水準)に向けて、単元・指導案検討 ○各自で全国学力・学習状況調査の問題を解き、分析を行う
8.22	全国学力・学習状況調査の分析と活用について	○全国学力・学習状況調査の分析と活用について、ワークショップにて全職員で共通理解、今後の活用を検討。
9.8	指 B 訪問指導案検討	○授業説明
9.19	授 高学年研究授業 	6年：算数「角柱と円柱の体積」 松井 みづ穂教諭 成 ：単元を通して、「無人島に水の入った容器を1つだけ持っていくことができる」と場面設定をしたことで学習意欲が高い状態で維持された。ロイロノートで考え方ごとに色分けをしたことで多様な考え方にふれ、また、複数の友達と交流させたことで思考の深まりにつながった。 課 ：全体の場で児童が自分の考えを説明したり、他者説明したりする時間がもう少し確保できると、児童の説明する力が更に育つことが期待される。適用問題によって一般化を図る意識を大切にしていきたい。
10.6	指 B 訪問指導案検討	○B 訪問指導案変更部分の検討(低・中・高学年部会で)
10.14	授 沼田市教育研究所研究授業 	5年：総合「お米とつながる命を考えよう」 木村 彩奈教諭 成 ：地域人材を活用して体験活動を行ったことで「白沢の米作り」に意識を向けながら学習を進めることができた。また、「伝え方3カ条」を設定したことで、相手意識をもって伝えようとする姿勢が見られた。 課 ：発表内容に総合的な要素を更に取り入れられるように、地域

		人材を効果的に活用し、連携しながら進めていくことが望まれる。
10.27	指B 訪問指導案検討	○模擬授業
11.17	B 訪問準備	○B 訪問指導案最終確認、共通理解、役割分担、準備
11.19	授初任者研修授業研究会 	4年：算数「広さを表そう」 伊藤 大泰教諭 成：第2学年時で学習したかけ算のチョコレートの問題を想起させる課題の提示の仕方、児童の意欲を惹きつけた。ペアから全体へと考えを比較・検討するうちに、友達の説明からやり方が分かるようになり、思考の深まりにつながった。 課：学級内での交流時のルールを定めておくことよい。交流の進め方を工夫することで、更なる交流の深まりにつなげていきたい。
11.21	授教育水準向上研究授業研究会 	2年：算数「九九のひょう」 土屋 智香教諭 成：魅力的な課題設定ということで、チョコレートを題材にしたことは、児童にとって身近で印象深く、「全体から欠けている部分をひく」という考え方を理解する上で有効であった。また、多様な考えを一般化して、ねらいに応じた視点で比較・検討することができていた。 課：適用問題において、問題に応じた方法を選ぶことができるように、それぞれの考え方のよさを確認しておくことよい。ペアで交流する際の方法を明確にし、継続して取り組むことで学びの積み重ねを図っていきたい。
12.22	B 訪問の成果と課題 今年度研修のまとめと紀要作成について	○これまでの取組の成果と課題の明確化 ○今年度の研修のまとめと紀要作成について
1.19	来年度の研修と学力向上について	○CRTの結果を受けて、来年度の研修についてアンケートのお願い
3.9	次年度に向けて	○来年度の研修テーマや研修内容の検討と仮決定、CRTの分析

*資質向上研修

月日	区分	担当	内容
4月 ～12月	イ 生徒指導に関する研修	メンター教員	○生徒指導、生活指導、学習指導等の疑問等への対応法、心構えやポイントの研修
7.16	カ 特別支援教育に関する研修	講師 群馬大学共同教育学部 特別支援教育講座 客員教授 峯岸 幸弘先生	「これからのインクルーシブ教育を共に考える」～発達障害の子どもたちのいるクラス作り～
8.4	ア 授業改善に関する研修	情報担当教諭 富永 隼哉	○自由参加型の授業研究・体育研修
8.22	ア 授業改善に関する研修	情報担当教諭 富永 隼哉	○B 訪問、研究授業に役立つロイロノートの使い方
夏休み	ア 授業改善に関する研修	各担任・担当教諭	○年間指導計画の見直し
職員会議 校内研修	エ 学校保健に関するミニ研修	養護教諭 井上 亜莉香	○食物アレルギーについて ○熱中症予防と対応について ○嘔吐物処理研修

利根小学校

所在地 〒378-0303 沼田市利根町追貝93番地
電話番号 0278-25-8172 FAX 0278-56-2221
校長名 吉田 広幸

1 学校の経営

1 学校の教育目標

基本目標：確かな学力と、豊かな心を持ち、ねばり強さと郷土を愛する精神に富む、心身ともに健全な児童を育成する。

具体目標：【知】進んで学習する子 【徳】思いやりのある子 【体】ねばり強くがんばる子

2 経営方針

スローガン：気づき 考え 実行し 笑顔あふれるチーム利根小

- (1) 基礎的・基本的な知識や技能の習得、活用力（思考・判断・表現）・問題解決力の育成
- (2) 人を思いやる心、自己有用感、道徳的判断力・心情・実践意欲と態度の育成
- (3) 健康・食育の知識や技能の習得と実践力の育成
- (4) 保護者や地域から信頼される学校づくり

3 本年度の重点施策

(1) 基礎的・基本的な知識や技能の習得、活用力（思考・判断・表現）・問題解決力の育成

- ①「課題を自ら見だし考える」場面を設定し、自分で学びをつくる楽しさを実感できる授業づくり
- ②ICTを効果的に活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体化の充実
- ③根拠を明確にした話し合いでの考えの深まりや広がりを実感させることで、「ふしぎ・できた・分かった」等の喜びをもたせる授業づくり
- ④学習規律の定着と発達段階や教科の特性を踏まえた学習の仕方を身に付けさせることによる、粘り強く、主体的に学習に取り組む態度の育成
- ⑤隙間時間や学びの時間、漢字・計算トライアルの工夫による、基礎学力の定着
- ⑥家庭学習の手引きの活用や「家読の日」の設定等の家庭との連携による、家庭学習の習慣や読書習慣の確立【**家族で本を読みましょ**う】

(2) 「人を思いやる心、自己有用感、道徳的判断力・心情・実践意欲と態度の育成

- ①一人一人が活躍できる学校行事や学級活動の充実と個のよさを認め励まし、自己有用感を高める学校づくり
- ②人権尊重を核とした、お年寄りや異学年、特別支援学級との交流等による、思いやりにあふれるよりよい人間関係が築ける学級・学年・学校づくり<青少年赤十字実践推進校指定（令和2・3年度）の成果を生かす>
- ③朝読書や読み聞かせ、家読の充実と市立図書館との連携等による、豊かな感性の育成

【**家族で本を読みましょ**う】

- ④「考え、議論する」道徳科への授業改善を図った、道徳的判断力・心情・実践意欲の向上
- ⑤児童の多面的な把握と理解を基盤にした、日常及び授業中の指導・支援の充実
- ⑥日常の観察や生活アンケート等を活用した組織的ないじめの未然防止や早期発見、早期対応

(3) 健康・食育の知識や技能の習得と実践力の育成

- ①体力向上プランや利根小アスリートカップの取組による、運動に親しむ資質の向上と体力の増進・運動能力の育成
- ②家庭と連携した「早寝、早起き、朝ごはん」の推進と「利根小よい子の一日」、「利根小 SNS ルール」等を活用した、規律正しい生活習慣の育成【**沼田市SNSルール**】
- ③健康に関する諸計画等についての共通理解と学校保健委員会の活用等による健康づくりに関する指導の充実
- ④命の大切さを実感する活動を効果的に取り入れたSOSの出し方教育等による、自ら命を守る態度の育成【**児童生徒の命を守り、育てる教育**】
- ⑤養護教諭や栄養教諭と連携した、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける食育や給食指導の充実
- ⑥特別支援教育と生徒指導、教育相談の関連性の重視と職員の共通理解の深化、SCや外部関係機関との連携の推進

(4) 保護者や地域から信頼される学校づくり

- ①学校安全計画や危機管理マニュアルを基にした安全学習や避難訓練の実施による、危険予測・察知・回避能力の育成と対応力・実践力の向上【**セイフティ沼田**】
- ②コミュニティスクールの仕組みを生かし、地域の教育素材や教育力を最大限に活用し、郷土のよさや夢を語れる学校づくりを目指した、特色ある教育活動の推進【**ぬまた未来創造学**】
- ③保・小・中の連携による、小1プロブレムや中1ギャップの解消と各教科等の指導における連結【**幼小中連携**】
- ④職員研修、人事評価システム等を活用した、教職員一人一人の指導力・資質の向上と組織的・協働的な取組の充実
- ⑤児童と向き合う時間増を目指した、校務のスリム化と計画的・組織的な運営に向けての改善

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主 題 主体的に取り組み、学びを深めることのできる児童の育成

副主題 ～対話的活動を中心とした、思考を深める授業づくりを通して～

児童の実態との関わり

- ・ 一人一台端末の活用で、図や教材を拡大したり繰り返し使ったりしながら自分の考えを意欲的に伝えようとする主体的な児童の姿が育っている。
- ・ 説明力については、根拠を示して、筋道立てて説明することや、比較検討するなどの学び合いについては、課題が見られる。
- ・ 思考ツールの活用は、自分の考えを伝えたり、まとめたりする際に有効であった。使用するツールや場面の精選がさらに必要である。

指導の在り方との関わり

- ・ 児童が主体的に活動できるような一人一台端末の活用方法についてさらに研修を進め、対話的活動を充実させていく必要がある。
- ・ 児童の考えを深めるために、どの考えを取り上げたり提示したり揺さぶったりしていくか、本時のまとめや児童の学びの自覚につながるような問い返しや視点を明確にした授業づくりに努めていく必要がある。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す児童像

【低学年】 自分の考えを分かりやすく伝え合い、他の考えのよさに気付くことのできる児童。

【中学年】 自分の考えを根拠を明確にして伝え合い、他の考えのよさを取り入れて考えを広げることのできる児童。

【高学年】 自分の考えを筋道立てて伝え合い、他の考えのよさを取り入れて多面的に考えを広げ深めることのできる児童。

【特別支援】 自分の考えをもち、伝え、考えや学びを確かにできる児童。

(2) 具体化した目指す児童像を達成するための共通実践する手立て

- ・ 一人一台端末の活用を継続し、根拠を示して意見交換や話し合い、議論が行えるようにしていく。
- ・ 教師が児童に対して問い返すことから始め、児童同士でも問い返しをしながらお互いの考えの理解を深めていくことができるようにしていく。
- ・ 授業の終末に現れてほしい児童の姿を明らかにして授業構想を行い、児童自身も自己の学習を振り返り、学びを自覚していくことができるよう、振り返りの工夫をしていく。

3 研修計画・経過報告 〈次ページ〉

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・ 児童が興味をもって課題に取り組んだり、根拠を示して意見交換や話し合いができたりするように、ロイロノート、Canva、動画など ICT を学年の実態や教材の特性に合わせて活用することができた。

○課題

- ・ 学びを深めた児童の姿が具体的になっておらず、振り返りの際に到達できたかがはっきりしないことがあった。

○今後の取組

- ・ 発問の精選や教師による問い返しにより、友達の考えと比べたり自分の考えを見直したり、理解を深めることができる機会を授業の中でさらに意識して取り入れていく。
- ・ 授業構想の際に、それぞれの活動場面での児童の姿をより具体化し、手立てや振り返りに生かしていく。

3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討

授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 (上段)・明らかになったこと (下段)]
4.9 4.14	・研修計画の検討	○研修内容についての共通理解 ○研修組織・方法の確認 ○研修計画の見直しについて ・昨年度の課題と本年度の研修の方向性
5.9 5.12	・公開授業計画立案	○各教諭の授業公開日及び学年・教科・領域の日程調整
5.22	・指導主事訪問A	○各教科での実践、指導主事による指導助言
6.4	3年社会 「市の様子」	授① 戸部教諭 (低学年部会) ○対話的活動を中心とした、思考を深める授業づくり ・導入の資料で児童が興味を持てる話題を取り上げたことが良かった。 ・振り返りの仕方を記述だけでなく選択式と組み合わせることにより、児童の学習状況を多面的に理解することができた。
6.9	・学力向上対策	○3年・5年NRT結果分析報告 ・国語「話すこと・聞くこと」算数「図形」に課題が見られた。算数では知識の活用を意識した授業作りをしていく。
6.18	5年理科 「魚のたんじょう」	授② 亀山教諭 (高学年部会) ○対話的活動を中心とした、思考を深める授業づくり ・動画を効果的に使用した導入により、児童が全員参加し主体的に取り組むことのできる授業となった。 ・自然に交流が生まれる場の設定や、児童に任せる、待つ姿勢を教える側が意識することが大事である。
8.26	校内研修の進捗状況の確認 研修推進に向けた情報交換 指指導案検討① (教育水準)	○学力向上対策フォーラムの報告 ○教育水準向上授業研究会における公開授業に向けての共通理解 ○指導案検討① (教育水準) ・評価項目、指導計画、グループ編成等について見直し
9.4	3年国語 「ポスターを読もう」	授③ 高橋教諭 (低学年部会・代表授業) ○対話的活動を中心とした、思考を深める授業づくり ・ロイロノートを使用した前時の学習が、本時の学習に生かされていた。 ・話合いのモデルを示したことで児童が活動に取り組みやすかった。 ・児童の実態に合わせて、主体的に取り組めるような魅力的な課題設定を考えていく必要がある。
9.8	5年国語 「対話の練習 (どちらを選びますか)」	授④ 千明教諭 (高学年部会) ○対話的活動を中心とした、思考を深める授業づくり ・Canvaを使用したことで、友達の見聞きながら発表を聞いた、自分の考えと比較したりすることが同時進行でできた。 ・学習規律など日頃の生徒指導や教諭自身の学びを生かした研究授業であり、特に若手教員にとって学びが多かった。 ・討論をさせるには児童の実態に合ったテーマ設定がなされるとさらによかった。
10.6	指指導案検討② (教育水準)	○指導案検討② (教育水準) ・指導案の項立て、校内研修との関わり、振り返りにおける児童の具体的な姿について確認をすることができた。
10.14	指指導案検討③ (教育水準)	○指導案検討③ ・本時の展開を中心に、器具の準備、グループ編成、ワークシート等細かい点について確認。指導計画を見直すことができた。
11.10	指指導案検討④ (教育水準)	○模擬授業・指導案検討④ ・マットの配置や児童の動き、タブレット操作等について模擬授業形式で確認を行う。
11.21	3・4年 「マット運動」	授⑤ 前原教諭 戸部教諭 (教育水準向上授業研究会) ○対話的活動を中心とした、思考を深める授業づくり ・ワークシートやICTの活用によって、児童一人一人の視点が明確になり、集団での話合いが活発化した。 ・教師が児童の発言を受け止め、問い返しをしたり、児童同士の考えをつなげたりしていくことで、新たな気づきや考えの広がりを生み出した。

11. 25	1年算数「ひきざん」	授⑥ 櫛渕教諭 (低学年部会)	○対話的活動を中心とした、思考を深める授業づくり ・課題提示の方法を工夫したことで、児童が意欲的に課題に取り組むことができた。 ・全員が発表できる場を設けたことが、考えの深まりや定着につながった。
12. 1	・教育水準公開授業振り返り		○市教育水準における授業公開を受けての反省・改善点の確認 ・集団解決の場において、ワークシートやICTの活用により、児童一人一人の視点が明確になり、活発な話し合いが行われた。 ・育てたい資質能力、目的や課題を明確にし、手段が目的化しないよう学習内容を焦点化して授業作りをしていく。
12. 18	なかよし1組生活単元「収穫祭をしよう」	授⑦ 野上教諭 (高学年部会)	○対話的活動を中心とした、思考を深める授業づくり ・児童の実態に合わせた資料の準備がされていたことで、児童が自己決定しながら活動に取り組むことができた。 ・安心して学習に取り組むことのできる学級の雰囲気があった。
12. 19	6年社会「明治の国づくりを進めた人々」	授⑧ 小野教諭 (高学年部会)	○対話的活動を中心とした、思考を深める授業づくり ・思考ツール(キャンディーチャート)を用いたことで考察の視点が明確になり、資料の比較がしやすかった。 ・終末における児童の姿を明確にすることで、活動内容が精選され、思考を深める活動に時間をかけることができる。
1. 19	なかよし2組	授⑨ 大関教諭 (低学年部会)	○校内研修の視点に沿った授業と授業研究会
1. 19	・授業実践のまとめ		○本年度の成果と課題 ○令和7年度研修の成果と課題について(アンケートより)
2. 9	・来年度のテーマの検討		○本年度の成果と課題、改善に向けての確認
3. 2	・研修のまとめ		○本年度の成果と課題の共通理解 ○来年度の方向性についての確認 ○CRT学力検査の分析

資質向上研修

月日	研修計画 [内容]		実施内容
	区分	講師	
5. 12	エ	学校保健 養護教諭	・アレルギー対応・緊急時の初期対応(熱中症、感染症等)
6. 3	エ	学校保健 消防署	・救急法講習(心肺蘇生・AEDの使用)
6. 9	ア	授業改善 情報担当	・ICT活用(Canvaの活用方法)
7. 14	エ	食育 栄養教諭	・学校給食「沼田の日」、ICTを活用した食育学習について
随時	キ	服務規律 教頭	・服務規律の確保に向けて
8. 26	カ	特別支援教育 特支教育Co	・通常学級における配慮が必要な児童への支援について
9. 9	イ	生徒指導 SC	・応用行動分析による問題行動の理解と支援

< 職員一覧 >

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
校長	吉田 広幸	教諭	高橋 雄輝	補佐事務長	星野 一枝
教頭	内田 淳	〃	柴田 聖愛	非常勤講師	星野 裕平
教諭	千明 浩己	〃	小野 詩織	学校教育支援員	星野 昇
〃	大関久美子	〃	亀山 秀治	用務員	長谷川 晃
〃	戸部亜由美	〃	野上 和栄		
〃	前原 阜希	養護教諭	安澤 舞彩		
〃	櫛渕 帆南	栄養教諭	遠藤 まみ		

多 那 小 学 校

所在地 〒378-0317 沼田市利根町多那732番地
電話番号 0278-53-2919 FAX 53-3199
校長名 井口 智恵子

I 学校の経営

1 学校の教育目標

【基本目標】◎多那を愛し、未来をきりひらく子

【具体目標】○よく学ぶ子(知) ○思いやりのある子(徳) ○たくましい子(体)

2 経営方針

- (1) 教育理念 全教職員が挑戦し、問題の解決に当たる
- (2) 目指す学校像 ともに学び、考え、助け合い、高め合う多那(自慢の学校)
- (3) 目指す教師像 互いに支え、高め認め合える人間性豊かな教師 (学び続ける・可能性を伸ばす)

3 本年度の重点施策

- (1) 確かな学力の育成
 - ① 「できた・分かった・わくわくする」授業の実践 (90%以上)
 - ② 繰り返し学習による基礎的な知識・技能の定着
 - ③ 問題解決型学習・探究的学習における対話と交流を重視した授業 【わくわくスクール沼田】
 - ④ 自己選択・決定を重視した家庭学習の充実
 - ⑤ 教員の得意や専門性を生かした、小中相互の乗り入れ型教科指導
- (2) 豊かな人間性の育成
 - ① 生徒指導の4つの視点を基盤にした積極的な生徒指導の推進 【児童生徒の命を守り、育てる教育】
 - ② 道徳教育、人権教育の推進
 - ③ SOSの出し方・議論する道徳の時間等による自他の命を大切にする指導
 - ④ 凡事徹底、師弟同行、率先垂範による生活指導
 - ⑤ 家庭と連携した読書活動の推進 【家族で本を読みましょう】
 - ⑥ 外部機関等との連携 (CS・SSWの充実)
- (3) 健康の増進と体力の向上
 - ① 学校保健の推進
 - ② 食育の推進 (早寝・早起き・朝ごはん)
 - ③ 運動好きな児童生徒の育成
 - ④ 体力向上プランをもとにした組織的・計画的な体力向上
- (4) 組織マネジメントの充実
 - ① 児童生徒・地域の実態を踏まえた特色ある教育課程の編成・実施・評価
 - ② 「確認・連絡・報告・相談+記録」の徹底と全職参画のPDCAサイクルによる学校評価の充実
 - ③ 小中連携一貫教育の促進と充実

II 校内研修の推進

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 「主体的・探究的に学び、考え判断したことを表現できる児童生徒の育成」

副主題 ～生活科・総合的な学習の時間等における体験的活動の工夫を通して～

子どもの実態との関わり

- ・自分が興味をもったことに対しては、進んで学習活動に取り組むことができるが、探究課題においては、自分事として捉えきれていない児童生徒が多い。
- ・体験的活動には積極的に取り組んでいるが、活動で得た情報をその後の学習につなげたり、生かしたりすることが苦手である。
- ・課題に対して自分の思いをもつことができたり、他者の考えを聞いたりすることはできるが、それらを言語化して人に伝えることに難しさを感じている。

指導の在り方や研修との関わり

- ・児童生徒が課題を自分事として捉えるために、必要感のある課題を設定したり、体験的活動を工夫したりして、自ら問題意識や活動のめあてをもって取り組めるようにする。
- ・体験的活動が目的化しないために、ねらいを明確にし、そのために効果的な体験的活動の工夫をする。また、それに関わる言語活動を充実させる。
- ・児童生徒が相手意識をもって表現し、課題を解決したり、思考の深まりを生み出したりするために、学習の過程において、協働的に課題解決に向かう場面や意見交流の機会などを設ける。

2 研修内容・方法

(1) 具体化した目指す子ども像

【低学年】身近な体験的活動を通して、気づきや自分の思いを表現できる児童。

【中学年】体験的活動を通して学んだことから、自分の思いや考えを表現できる児童。

【高学年】体験的活動を通して学び考えたことから、相手意識をもって思いや考えを表現できる児童。

【中学生】課題意識をもち自分で考え決定し、体験的活動を通して、相手意識をもち思いや考えを表現できる生徒。

(2) 共通実践する手立て

- ・生活科・総合的な学習の時間等において、児童生徒が主体的・探究的に学ぶことができるような課題設定の工夫を取り入れることはもちろん、体験的活動の工夫とそれに関わる言語活動の充実を図る。
- ・体験的活動は、ねらいを明確にして実践する。
- ・体験的活動として、地域の人、もの、ことと積極的につながり、地域の特徴やよさに気づき地域への親しみや愛着を醸成するとともに、課題解決に必要な知識及び技能を身に付けさせ、社会で働く資質・能力の育成を目指す。
- ・体験的活動を通じて、児童生徒に身に付けさせたい力の育成に迫ることができているか、効果的であったかを児童・生徒の発言やアンケート、写真などで見取り、授業改善を図る。

3 研修計画・経過報告 <裏面>

4 これまでの研修の成果と今後の取組

○成果

- ・地域の願いや困り感、子どもの興味関心等をもとに課題を設定したことで、児童生徒が課題を自分事と捉え、主体的に取り組むことができた。
- ・ねらいを明確にした体験的活動を取り入れることで、課題を自分事として捉えられるようになった。
- ・体験的活動を通して得た知識や思考の深まりを課題解決に生かすことができた。

○課題

- ・体験的活動を通して得た気づきや自分の思いを表現する力が乏しい。
- ・児童生徒の聞く力が身に付いていない。
- ・地域の人的資源や物的資源を活用することのよさに対する教師の理解が浅い。またそれらの豊かな資源を授業等で活用し切れていない。

○課題解決に向けての今後の取組

- ・児童生徒が主体的・探究的に学ぶ仕掛けや、教師の効果的なファシリテートの仕方を考える。

3 研修計画・経過報告 (全: 全体会 指: 指導案検討 授: 研究授業・授業研究会)

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点・明らかになったこと]
4.14	全① ・研修内容について	○本年度の研修主題、副主題について
4.28	全② ・A訪問指導案形式について ・校内研修指導案形式について	○指導主事訪問Aについて
6.2	全③ ・授業実践計画と年計の共有 ・A訪問授業実践指導案検討	○指導案検討
6.13	全多那小中指導主事訪問A	○公開授業
6.23	全④ ・A訪問の振り返り ・授業研究会の報告 ・研修の進め方の確認	○A訪問の成果と課題の情報共有
7.11	授・授業実践・授業研究会 ・中3総合 千明春香教諭 「最高の感謝を地域へ伝えよう ～僕たちの多那校プロジェクト～」 探究課題：未来を創る	○プレゼン発表による体験活動 ・よりよい運動会にするために、情報収集の場面で、先生方に助言をもらう活動を取り入れたことで、地域の人にも楽しいと感じる種目や競技内容について、相手意識や目的意識をもって見直すことにつながっていた。
8.27	全⑤ ・学力向上フォーラムをふまえて	○学力向上フォーラムの情報共有
9.22	全⑥ ・魅力的な課題設定の仕方について 講師：荒木指導主事	○魅力的な課題設定について ・魅力的な課題設定の仕方について、情報共有や話し合い、指導主事の助言をもとに理解を深めた。
9.29	全⑦ ・B訪問に向けた指導案検討	○授業実践の成果と課題の情報共有 ○指導案検討
10.6	授・授業実践・授業研究会 ・小2生活科 井上駿教諭 「おもちゃランドをつくろう！」	○試し遊びによる体験活動 ・前時に試し遊びをして、本時に気付いたことをアドバイスし合う活動を取り入れたことは、おもちゃを改善しようという次時以降の学習の必要感をもたせるのに有効であった。
10.14	授・授業実践・授業研究会 ・中2総合 下田隆広教諭 「多那の魅力 未来へ繋げ～感謝の思いを地域に還元しよう～」 探究課題：多那を創る	○実物にふれる体験活動 ・自分たちの願いを実現するために、情報収集の場面で実物にふれる体験活動を取り入れたことで、課題解決に必要な情報を得たり、専門的な視点をふまえながら整理したりすることができていた。
10.15	授・授業実践・授業研究会 ・小1国語 新井久仁美教諭 「くわしくかこう」	○お互いの考えを伝え合う活動 ・本時において、児童らでアドバイスをし合う活動を取り入れたことは、次時以降の書くことに必要な情報を集めたり、気付いたりするのに有効であった。
10.22	授・授業実践・授業研究会 ・中1総合 坂本望教諭 「福祉の学習を通して地域のためにできることを考える」 探究課題：多那を知る	○単元の導入に取り入れた福祉体験活動 ・単元の導入場面で福祉体験をしたことで、生徒に目的意識をもたせることにつながった。実際に体験したことで地域の方の思いに気付くことができていた。
10.29	授・授業実践・授業研究会 ・小1算数 小林昌行教諭 「かたちあそび」	○実物にふれながら考える体験活動 ・本時のような課題設定の場面で、かたちあそびをする体験活動を取り入れ、立体を動かしたり重ねたりしたことは、児童の「どうして」を引き出したり、形の特徴に気付いたりするのに効果的であった。

11.5	授・授業実践・授業研究会 ・小5・6総合 萩原圭教諭 「多那を守ろうプロジェクト～農業 で多那の未来を明るくしよう～」 探究課題：多那を愛する	○プレゼン発表による体験活動 ・本時の前に保護者との意見交換を取り入れたことで、 本時の導入における資料提示に生かすことができ、児童 が考える際のヒントになっていた。
11.10	全⑧・B訪問（水準）に向けて	○指導案検討 ○資料の効果的な提示について
11.11	授・授業実践 ・中2道徳 山田哲也教諭 「自分のよさを伸ばして」	○職場体験活動の学びを生かした教科横断的授業 ・10月に行った職場体験学習と本時をつなぎ合わせ たことで、生徒はめあてをより自分事として捉えて 考えることができていた。
11.21	指導主事訪問B（沼田市教育水準） 全・小3・4総合 渡貫文子教諭 「森の博士になろう」	○実地体験と地域人材を活用しながら学校林の未来を 考える活動 ・児童の学習に必要な人材や物的資源等を、教師側が意 図的に取り入れたことが、児童の探究的な学びのスペ イラルにつながった。
12.8	全⑨・B訪問の振り返り	○B訪問のグループ協議の振り返り ・教師が事前に「対話・交流」の目的を明確にして、児童 生徒と外部の方をつなぎ、考えを深めさせるためのフ ァシリテートが大切。
1.19	全⑩・実践の振り返り・まとめ ・授業研究会の報告	○体験的活動の工夫における成果と課題の共有 ・体験的活動を意図的に取り入れたことで、児童生徒の 主体的な学びにつながった。
2.10	授・授業実践 ・中1国語 鈴木朋華教諭 「物語を振り返って別の視点から 見つめる」	○意見交流を通して、行動や心情をもとに視点を変えな がら登場人物の人物像についてとらえる活動
2.16	全⑪・今年度の振り返り	○今年度のまとめ ・教師の新たな学びについて

5 資質向上研修

月日	研修計画 [内容]		実施内容
	区分	講師	
5.16	保健に関する研修	養護教諭	心肺蘇生法講習会・アレルギー対応の仕方
5.19	学校侵入者対応訓練	スクールサポーター	学校侵入者対応訓練全体研修
毎月	服務規律に関する研修	服務規律担当	服務規律について
9.8	職員研修	県教育委員会	全国学テを活用した授業改善説明会の視聴

< 職員一覧 >

職名	氏名	職名	氏名
校長	井口智恵子	教諭	新井久仁美
教頭	星野 純一	教諭	金井みち代
教諭	渡貫 文子	非常勤講師	松井 和則
教諭	小林 昌行	〃	潮見 厚子
教諭	井上 駿	主任用務員	金子 陽子
教諭	萩原 圭		